幸 sachi

[幸] sachi vol.3

2005年8月1日発行 定価 200円

春夏秋冬・季刊号・増刊号とあわせて年6回発行

●定期購読／年間1,000円（6冊）
※HP・メールにてお申し込み下さい。

編集・発行

株式会社 ハッピー

tel 0120-88-6868
fax 0120-88-3937

〒611-0041 京都府宇治市槇島町目川70番地の1

URL…http://www.kyoto-happy.co.jp
E-mail…happy@kyoto-happy.co.jp

Happy ケア・メンテ

臨時
夏
2005

幸 sachi

着だおれ
京都から発信

vol.3 特集：透かしうちわの歴史を残す技

INDEX

03　はじめに ／ 案山子の独り言

04　職人の技 「京うちわ」阿以波（あいば） 透かしうちわ

12　すきまにきょうと ～写真で魅る京都の街～

14　着だおれ京都から発信 「京都 壬生堂」アロハシャツ

16　きもの燦々（さんさん） ～キモノに惚れる女性（ひと）～

18　信楽に魅せられて 「みのる窯」

20　美味いを回遊 「中村軒」すだち氷

22　ハッピーのある街 京都・宇治 「源氏物語ミュージアム」

23　ハッピーから一言

はじめに

「技」を持っている職人達。
華やかな表舞台とは違い、裏には精進する姿あり。
人知れず腕を磨き、技術を身につける。
職人技と呼ばれる、完成された一つの感動。
そして、幸せを感じている人々をご紹介。
私たちがお届けする「幸（sachi）」は、
ハッピーのケア・メンテの技に、
共通するものがあると考えています。

案山子の独り言

夏本番いよいよ子供たちの夏休みが始まる。
子供たちに手のかかる日が40日間続く。どこの母親たちもウンザリするようだ。
しかし、モノは考えよう…。
この40日間もある夏休みのあいだに「子供のしつけ」について見直す良い機会だと思う。
最近の若い親子連れを見ていると、お友達感覚が強く、父権も少なくなっているように見うけられる。
毎日の暮らしの中で「子供へのしつけ」に甘さが見られる。
「厳しいしつけ」のないことで、人への「敬い、慈しみ、愛する」という行いがなくなっている。
人間から「人を敬う」という行為を除いたら何が残るというのだろうか。
だから、フリーターだ。ニートだと騒ぐ。
そうなる前に、家族で「生きるとは?」をテーマに話し合うことをおすすめしたい。
夏休みが絶好の機会のように思う。

橋本 英夫

職人の技（わざ）

千年の都で育まれたにふさわしい
繊細優美な姿を現代に伝える

職人の技【京うちわ】

●京うちわのルーツと特徴

14世紀に伝来した朝鮮うちわは、挿し柄（※1）の技法を用いて作られているのが特徴。江戸期に入ると、これをルーツに京の都で宮廷御用の土佐派・狩野派の絵師が絵付けをした絢爛豪華な「御所うちわ」と呼ばれるものが作られるように。さらに、身近にある竹や紙を材料に作られるようになったうちわは、庶民の生活の中でも用いられるようになった。これが「京うちわ」の始まり。

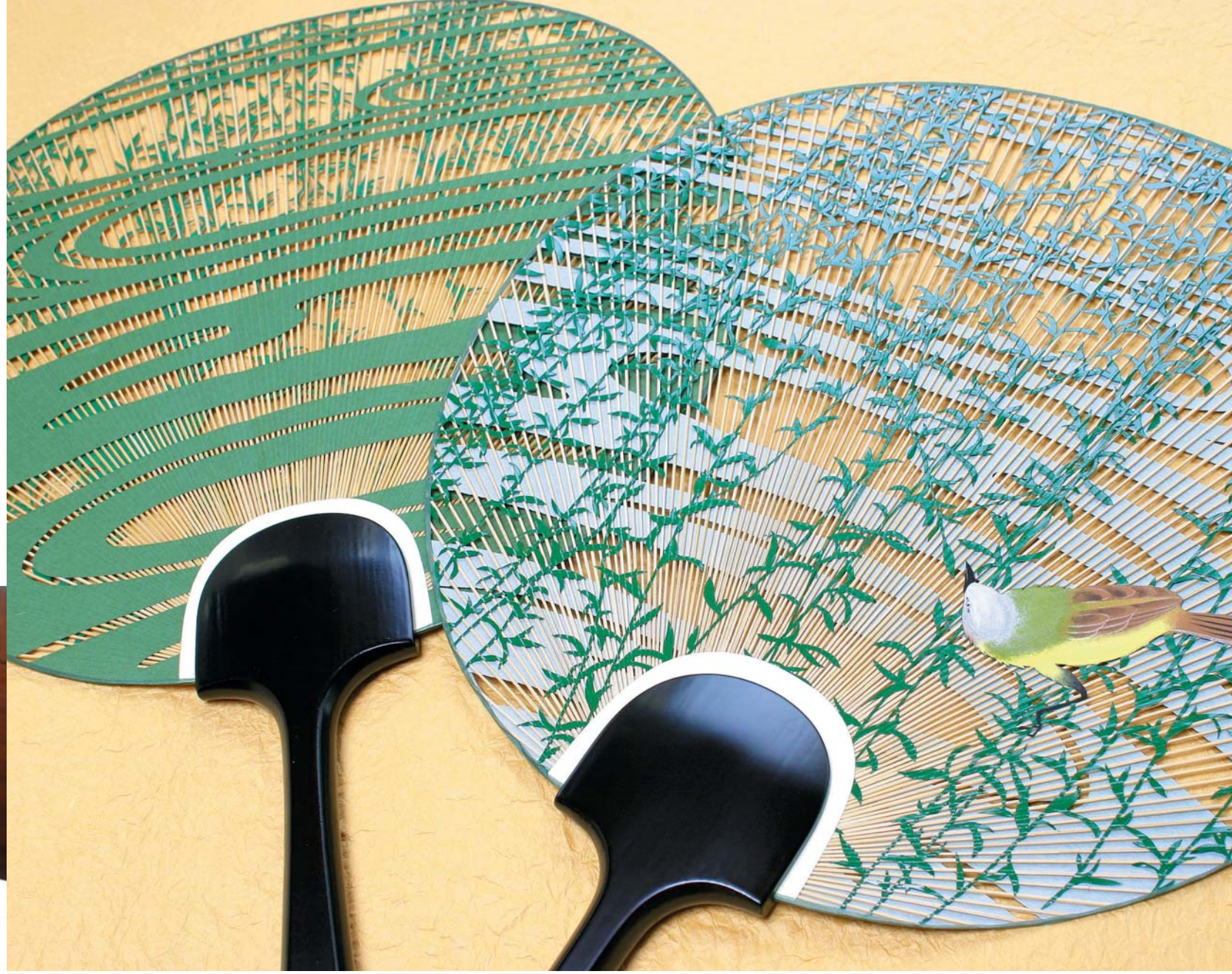
※1「挿し柄」とは?
うちわの面と持ち手となる把手が別に作られ、細骨を1本づつ放射線状に並べ、あとから柄をつけた挿し柄の技法は、面の美しさが強調されるうちわ。

●うちわの起源

中国の周の時代（紀元前3世紀）には、
すでに存在していたという「うちわ」。
今でこそ、うちわ=涼をとるものと考えられますが、
日本へ伝わったとされる6世紀から7世紀頃では、
祭礼や貴人女性が顔を隠すために用いられ、
戦国時代には、武将の軍配や家臣への褒美としても重宝。
江戸時代には女性のファッションアイテムとして流行し、
バッグを持つように、スカーフを巻くように…。
自分の好きな色や柄のうちわを持つのがステイタス。
そんな時代もあったとか…。

職人の技【京うちわ】

目にするだけ
手にするだけで
涼やかな心地



〈写真・右〉 透かしうちわ「柳に鳥」
表には、柳に鳥の絵柄が入り、裏には、水面の絵柄が入る。

〈写真・左〉 並型片透かしうちわ「糸トンボ」
うちわ置きに置いて、粋な夏を楽しむ。

職人の技【京うちわ】

手仕事の粋を感じる透かしうちわ

「京うちわ 阿以波（あいば）」に見るモノづくりと暖簾（のれん）を守るための技

創業元禄2年の京うちわの老舗は、現在、10代目饗庭長兵衛を名乗る饗庭智之さんが暖簾を守る。『阿以波』の名前と技術、そして、透かしうちわを残すための歴史は、今も確実に歩み続ける…。

饗庭 智之（あいばさとし）

昭和35年8月23日生まれ。
十代目 饗庭長兵衛（あいばちょうべえ）襲名。
1998年 通商産業大臣奨励賞受賞

「阿以波」（あいば）

京都市中京区柳馬場六角下ル

●涼しいうちわを作るには…

生活の中で涼を演出する「うちわ」。動かして風をおくる。飾ることで見た目の涼しさを知る。普段使いできる気軽な京うちわ、美術工芸品としての京うちわという、用途別、色柄別、種類別に、およそ300種類以上を用意する『阿以波』。10代目主人・智之さんは、職人であり営業マンでもあるがゆえに、多忙を極めながらも意欲的にこなす。「作ることばかりで、お客様の手元にいかないでは意味がありません。お客様に使っていただいてこそ、作る意味もあります。もちろん、作品として『阿以波』を魅せることも必要ですし、京うちわの伝統を守ることも大切ですが、職人だけ、営業マンだけでは、今の時代生き残れないのです」。

伝統産業にはその昔、プロデューサー的存在の人物がいたという。「こんな作品が欲しい」という企画から完成までの一切を統括する人々。今は、お客様が欲しいと思うであろうデザインを考え、一番良い時期に竹を調達し終え、制作し、本格的な夏を前に売りに出す。智之さんはすべてに関わり、仕事をこなす。「菖蒲や朝顔、秋草などの定番も毎年絵柄を変えますし、源氏物語やギリシャ神話なども絵柄にしたことがあります。人からの提案で視点も広がるので、日本画家の方にお願いすることもありますが、全ての責任を持つのが私の仕事です」。

智之さんは、肩の力が入った100%の図案はダメだという。理由は「それで涼しいうちわができると思いますか？涼しい時は肩の力を抜くもんでしょ」。300年に及ぶ「京うちわ」という名の伝統は、「うちわを作る」ことへのこだわりと「うちわが愛される」ことへの情熱に支えられ、これからも、風情ある夏の涼を演出してくれる。

すきま に きょうと

アンナ キョウト ヤ コンナ キョウト
ノゾイテミタラ…

着だおれ京都から発信

■京都 壬生堂

「着物でアロハを作る理由」

壬生の自宅で、着物生地にこだわってアロハを作る兄弟がいる。一つひとつが手作りの一点もの。なぜ和柄なのか？アロハなのか？こだわりに耳を傾けてみる。

京都 壬生堂 代表
松岡 太一 さん

1974年生まれ。生まれも育ちも京都・壬生。西京商業高校を卒業後、飲食店など様々な職業を経験するも染工芸の世界に戻る。父の営む「松岡工芸」で絞り染めを学びながら「京都 壬生堂」をスタート。店名は「松岡工芸」の工房名でもある。

―― アロハを作るきっかけは?

太一氏「元々アロハが好きやったんですよ(笑)。とはいえ、アロハのルーツは着物からということを知ったのは大きかったですね。19世紀の終わりから20世紀のはじめに、ハワイに移住した日本人は、農園労働者として働いていたでしょ。働く時に、袖があるような着物は作業しずらいし暑いでしょ。あたりまえですが、『ハワイにはシャツがあって、それに似るように、着物をほどいてシャツを作ったのがきっかけ』だと聞きました。それで興味が湧いて、うちの着物地で作ってみては?と思ったのがそもそものきっかけです。」

―― 着物でアロハに意義ありですね。

太一氏「よりリアルにアロハに近い一着を作りたいと思っているので、着物を使うことにはこだわります。生地は正絹。」
秀樹氏「染めている立場から言うと、化繊系には手は出せません。着物＝正絹ですから。他にも、ボタンに特徴を持たせて壬生堂らしさを意識しています。例えば、黒蝶貝の貝殻を使うなら、味を出すためにわざと裏返してみたり工夫しています。」

―― デザイン選びは?

秀樹氏「生地自体、白生地から染めて作る生地もあるし、良い着物があれば仕入れることもある。新しいものから選んでいますが、着物地であることを意識しますから…」
太一氏「兄弟二人で相談します(笑)。着物のリアルな姿を見てほしいので、生地を無理やりアロハ仕様に染めることは避けますし、無理に柄あわせもしません。縫製もしっかり計ってというよりも、イメージを造りながら着やすい形に仕上げます。」
秀樹氏「でも、散々悩んで考えたのに、次の日には意見が変わることもありますね。そんな時は、もっと良い方法を見つけた時ですけれども。」
太一氏「とくに、男性に着て欲しいので『壬生堂のアロハを着る＝格好いいと思われる』となればと考え製作しています。男性が着物を着る機会は少ないし、せめてアロハで!希望を言えば、ジャストサイズをデニムと合わせて着て欲しいですね。」

―― 今後の展望を教えてください。

秀樹氏「今後も、アイテムのバリエーションを増やしながら、世の中に無いようなアロハを作りたいです。」
太一氏「壬生堂のアロハを着ている人が、すれ違う人達に振り返って見られるような一着を作ります。」

熱く語る兄に、冷静沈着に話す弟。松岡兄弟にとってアロハは、着物のリアルを表現し、自分達らしさを探求する。だからこそ、壬生堂の一着には一点ものとしての価値がある。

京都・壬生にある「創作染め松岡工芸」。職人である父の代から歴史を刻み始めた着物染工房は、実直な弟・秀樹さんが継ぐであろうと考えられていた。平成2年、当時、染色とは無縁だった兄・太一さんがアロハと出会い、もう一度家業について考えた。その結果、オンラインショップとして誕生したのが「京都 壬生堂」。経営と戦略は兄中心、仕立てや柄などキーを握る着物関係は弟を中心とし立ち上げたブランドである。販売において、卸業者や小売を通す既存の流通を排除し、染色工場から消費者へとダイレクトにつながる流通革命を起こし、結果、着物を本来の“適性価格”で提供することに成功。現在は、和柄のアロハやTシャツ等の制作も手がけ、ネットで販売する。

■京都 壬生堂　http://www.mibudou.com/

第2回

きもの燦々（さんさん）

細かな亀甲柄が入った茶色の夏結城を着用する臼井さん。紫色の帯締めと帯揚げで、シックな大人の雰囲気に。透明ビーズを一つひとつ縫い付けた襟元が陽光できらめき、氷のような涼感を演出する。渋めが好きという臼井さんのコーディネート術は、緑色や橙色の帯締めなど鮮やかな色を差し色として使い、季節やその日の気分に合わせる着こなしは上級者レベル。

涼風さらり 夏に咲く一輪の華

～キモノに惚（ほ）れる女性（ひと）～

臼井 真由美 さん

京阪神で活躍するラジオ・ディレクター。着付け教室をきっかけに、着物の美しさ、着こなす悦びを知る。着物は30点以上持ち、「着物を来て友人と食事に出かけたり、季節の花を見に行くのが愉しみ」だという。

撮影：Window Gallery Oct／http://www.as-oct.com

信楽（しがらき）に魅せられて

松川　実
MINORU　MATSUKAWA

「みのる窯」主宰
滋賀県甲賀市信楽町長野676-1
TEL（0748）82-2548
http://www.ex.biwa.ne.jp/~minorugama/

昭和24年　奈良県天理市に生れる
- 近畿大学附属高等学校卒業
- 信楽、山文製陶所入社
- 神崎継春氏に師事
- 日本工芸会近畿支部展入選
- 昭和57年（日本工芸会賞受賞）
- 昭和58年（日本工芸会正会員）
  日本伝統工芸展入選
- 平成4年　松下幸之助記念賞受賞
  日本陶芸展入選
- 第五回秀明文化基金賞受賞
- 滋賀の工芸・伝統のやきもの展出品
  （滋賀県立近代美術館）

滋賀県甲賀市の焼き物で有名な町、信楽にある「みのる窯」。松川実さんと京子さん夫婦が営む窯元は、洗練された美しい器の数々が心を捉える。工房には、手に馴染む湯のみから独創的な花器まで、様々な創作陶芸が並ぶが、毎月第2第3火曜日には陶芸教室を開催。気さくなお二人だからこそ、関西一円から様々な人が通う。

楢灰窯変花器（ならばいようへんかき）

435×135×355(mm)　¥315,000（税込・送料別）

楢灰窯変壷（ならばいようへんつぼ）

310×310×270(mm)　¥252,000（税込・送料別）

灰釉窯変鉦鉢（かいゆうようへんどらばち）

280×280×95(mm)　¥52,500（税込・送料別）

楢灰掛分皿（ならばいかけわけざら）

255×255×30(mm)　¥105,000（税込・送料別）

〈ご注意〉※掲載商品は創作美術工芸品のため、現品限りのご提供となります。※印刷画像と現物では若干色合いが異なります。
※返品はお受けできませんのでご了承ください。※お支払い方法その他詳細につきましては別途ご案内させていただきます。

●ご注文は…株式会社ハッピー／〒611-0041京都府宇治市槇島町目川70番地の1　TEL:0120-88-6868　FAX:0120-88-3937
URL：www.kyoto-happy.co.jp/　Email：happy@kyoto-happy.co.jp

社団法人日本通信販売協会会員 JADMA

老舗でいただく 夏の楽しみ

美味いを回遊
vol.2

～中村軒のすだち氷に涼を知る～

桂離宮の南に店を構え120余年の[中村軒]。麦代(むぎて)餅(もち)で知られる老舗の菓子には、季節毎の表情があると幅広い年齢層に愛される。夏のお楽しみは、12種類のかき氷。中でも季節氷は好評で、7月までのマンゴー氷が終われば、[すだち氷]が登場し、店内がより活気づく。上質のザラメ糖とハチミツで作る特製のシロップに、徳島産すだちをたっぷり絞る、爽やかな酸味と甘みが広がる氷(8～9月限定)。男性ファンも多く、ビタミンC豊富で夏バテ防止にも。

●明治16年創業。素朴な味の麦代餅を始め、御所献上菓子でもある[かつら饅頭]や裏千家御家元賞受賞の[りきゅう饅頭]等、様々な銘菓がある

●「創業当時からの製法を守り、最高の原料で、お客様が喜ぶ美味しいものを作り続けます。」と言う5代目中村亮太さん。受け継がれてきた、懐かしくて飽きのこない味を今に伝える

御菓子司 中村軒
http://www.nakamuraken.co.jp/

すだち氷。数十年前から、自家製の粒あんと蜜を使って始めたカキ氷。
「他店と違う味を」と考え[果肉]を使ってみたところ、今では長い行列が…

「源氏物語ミュージアム」をご紹介

■源氏物語ミュージアム
http://www.city.uji.kyoto.jp/

11世紀初頭、紫式部が書いた『源氏物語』。平安女流文学の代表作として知られ、日本だけでなく世界中の人々を魅了しています。一般的には、全五十四帖で三部構成。中でも、物語最後の十帖は「宇治十帖」と呼ばれ悲恋を描いていますが、舞台はハッピーがある街、『宇治』。［源氏物語ミュージアム］は、そのゆかりの地として今から5年前に開設されました。風俗博物館でも一部具現化した、六條院の縮小模型をはじめ、牛車、屏風、燈台など、平安時代の貴族たちが日常に使っていた乗り物や調度品の数々が復元、常設展示されています。また、映像や音響による物語の紹介や、最後のヒロイン浮舟を主人公とした、篠田正浩監督による映画『浮舟』の上映も。宇治の魅力を余すことなく伝え、宇治以外のあらすじもしっかり楽しめる此処は、雅びやかな映像や音に酔いしれ、まるで光源氏が現れるような、美しい物語の世界に引き込まれる幻想的な空間といえます。

Relax Wardrobe

洋服を知りつくしたプロが
マネジメントします

大切な洋服には危険がいっぱい

湿気によるカビ・虫くい。
さらに蛍光灯による色やけ・変色、煙草のニオイなど、
大切な洋服には危険がいっぱい。
『ネットクローク』は、あなたのワードローブとして
安心してご利用いただけます。

除菌快適クリーンルームのネットクロークは、湿度50%・温度23℃。
湿気や害虫・菌などを発生させない環境を維持しています。

「仕立て上がりの風合い」
仕立て屋が作るのと同じ工程でプレスするのが理想の姿です。ハッピーにはそれがあるようです。
マリオ・ペコラ銀座　佐藤英明氏（評）［Men's Ex］より

クリーニングからケア・メンテへ
Happy ケア・メンテ

個性的なオシャレを楽しむ時代。関心が高まるごとに…素敵に装う。デザイン性を重視する。カラーを選ぶ。
いいえ、本当にこだわりたいのは、『永く愛せること』。ケア・メンテする発想を持つ。ハッピーからの提案です。

株式会社 ハッピー
FreeDial 0120-88-6868
www.kyoto-happy.co.jp